

4 - 8 駿河湾湾口部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Entrance of Suruga Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

1 / 5万沿岸の海の基本図整備の一環として、昭和54年7～9月標記の調査を行った。その概要は次のとおりである。

海底地形を第1図に示す。駿河トラフが駿河湾湾口のほぼ中央を南北に走り、御前崎側および伊豆半島側の大陸斜面を分けている。トラフの底は水深2500m～2800mの比較的平坦な緩斜面を形成しており、その幅は御前崎－石廊崎を結ぶ線上付近で約1km、これより南では約7kmに広がっている。トラフの東西両縁は300 / 1000～500 / 1000の比較的急な斜面で限られ、石花海南堆と御前崎海脚の東斜面、及び伊豆海脚の西斜面の基部を形成している。

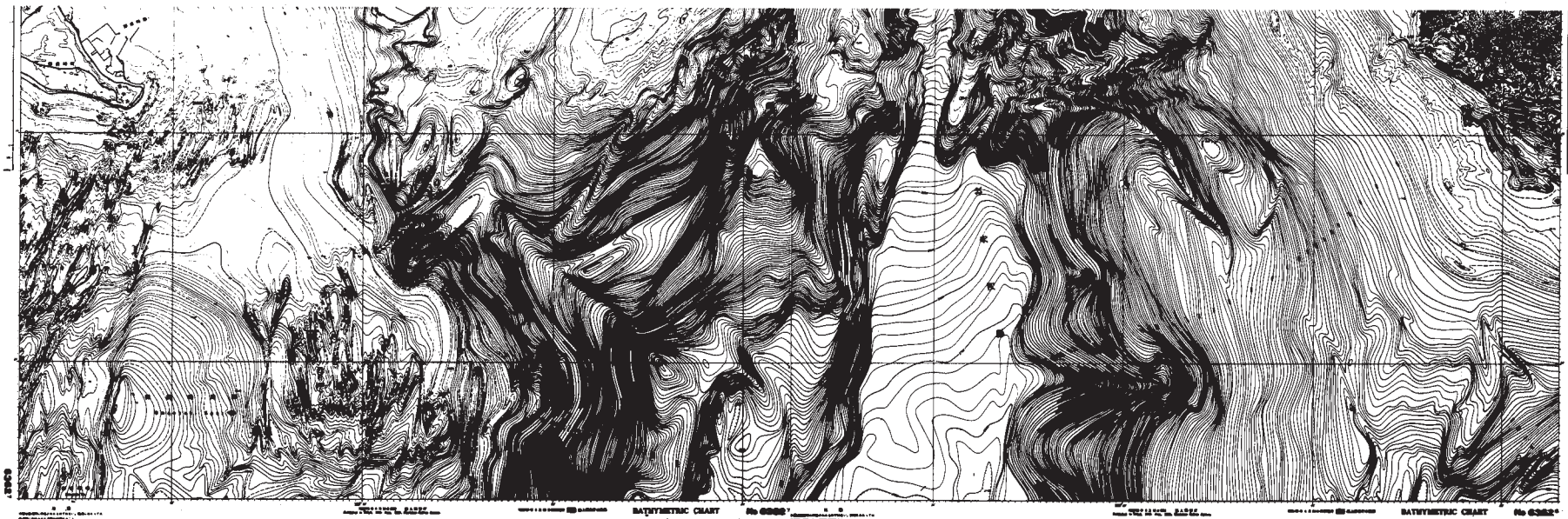
比較的規模の大きい海底谷がこの御前崎海脚の北東斜面に沿って北西から南東へ走っており、伊豆側斜面にも伊豆半島南西斜面に沿って南東から北西に向かって走る海底谷及び伊豆海脚の基部を東から西へ走る海底谷がある。

御前崎の南方に広がる大陸棚は、御前崎から南南東にのびる御前崎海脚の頂部にあたっている。南北ないし北北東－南南西の地形的な伸びの方向が比較的明瞭で、中央部には東向きの低い崖によって西縁を限られた低地帯がある。

海底地質構造図を第2図に示す。調査は音波探査による。断層及び摺曲構造の軸方向は駿河トラフ以西の海域において北東－南西ないし北北東－南南西方向が卓越しており、北東－南西方向は主として石花海南堆あるいは御前崎海脚の基盤を構成している新第三系の摺曲軸または断層地塊の長軸方向に、北北東－南南西方向は御前崎海脚の大陸棚面を切る断層や、石花海南堆・御前崎海脚のトラフに面する地形面を規定する断層線の方向などに見ることができる。大陸棚の低地の西縁を限る東落ち断層は地形的にみて長さ約3kmの左雁行の断層によって構成されている可能性がある。

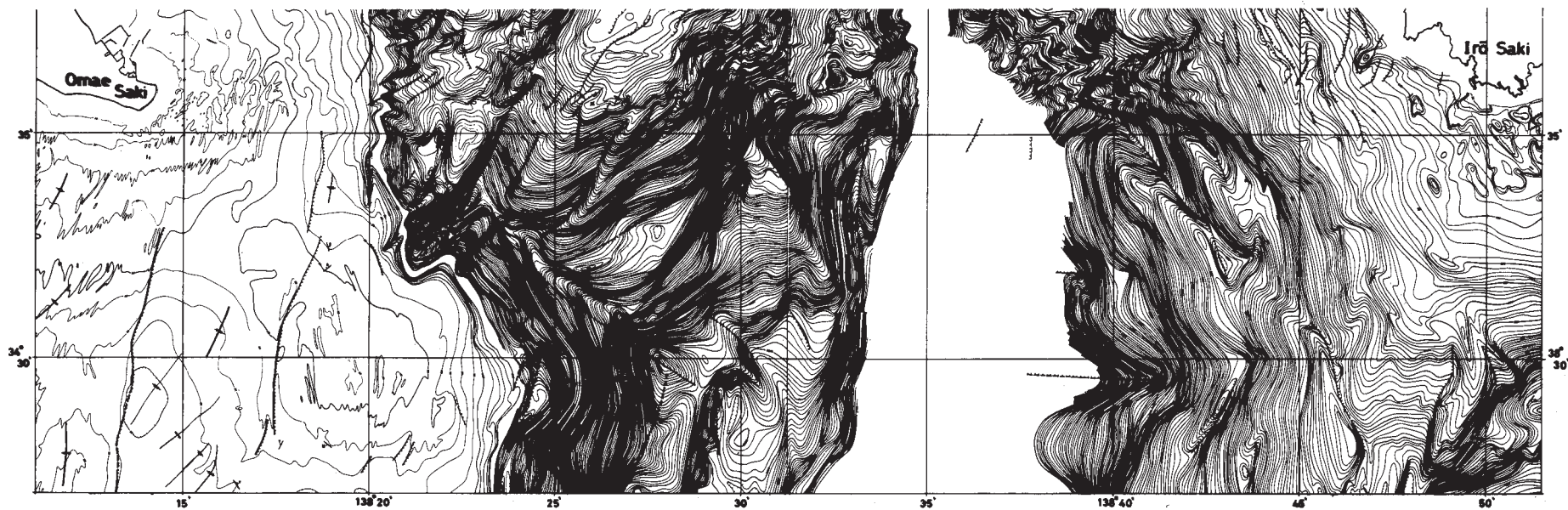
伊豆半島側には北西－南東方向の断層が南西斜面に並走しており、その一部は海底谷の軸方向を規定している。

(桜井 操)



第 1 図 駿河湾湾口部海底地形図

Fig. 1 Bathymetry in the entrance of Suruga Bay.



第 2 図 駿河湾湾口部海底地質構造図

Fig. 2 Submarine geological structure in the entrance of Suruga Bay.